

平成31年度（令和元年度）の学校評価

本年度の重点目標	①将来の目標をもたせ、生徒の能力を最大限に伸ばす。 ②自律の精神を培い、望ましい社会性を養う。 ③多様な生徒へのきめ細やかな対応を組織的に行う。 ④P T A、同窓会及び地域との連携を深め、開かれた学校づくりを推進する。 ⑤組織及び個人の両面におけるコンプライアンスを徹底する。 ⑥円滑な教育活動が推進できるよう、教職員の健康維持に配慮した体制を構築する。		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務	①広報活動の充実 ②防災意識の向上 ③学校と保護者の協力体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・HP掲載手順の明確化 ・防災教育の研究と実践 ・P T Aの情報交換を密にする 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集からHP掲載までの手順を明確にし、迅速に対応できるようになった。 ・一宮地区の大雨により避難警告が出たときに、生徒が地震警報と勘違いして、頭を守るために机の下に隠れた。防災避難訓練やシェイクアウト訓練の実施により、生徒の防災意識を高めていると感じた。 ・役員会、理事長・副理事長会、理事会を通して、保護者からの意見集約をするとともに、学校の指導について理解を得るよう心がけた。
学習指導	①65分授業の充実 ②個々の生徒に応じた学習指導の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の教員が教科指導力を向上させ、授業改善を図る ・多様化する生徒に対応しつつ、生徒が主体的に学習する姿勢を育てる 	<ul style="list-style-type: none"> ・「年間指導計画並びに実施表」利用による指導計画の立案や振り返りについてはおおむね軌道にのった。 ・生徒の主体的な学びの姿勢を、一斉授業の中でどのように養成するかについては、多くの先生方が苦心している。来年度は教員間での授業参観を実施し、この問題についてより切り込んでいきたい。 ・家庭学習での課題については、各教科で狙いや目安時間等の指示をするなどの工夫をいただいている。その一方、課題を消化しきれずにいる生徒も少なからず存在しており、学校不適応に陥る一因となる恐れがあるため、一律に提出を求めるのではなく、個々の生徒の学習状況を見極めつつ指導する必要がある。
生徒指導	①基本的な生活習慣の確立 ②安全確保の推進 ③規範意識の醸成 ④いじめ防止対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席、遅刻、早退の理由を把握し、適切な指導を行う ・生徒の安全を考え、組織的に対応する ・生徒に交通安全に対する意識を高めさせる ・予防的な交通安全活動に取り組む ・公共でのマナーの意識を高めさせる ・あいさつを励行 ・高校生らしい身だしなみを日常的に意識させるようにする ・いじめの未然防止に係る取組を行う ・いじめの早期発見、適切な対応につながる方策をとる 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻防止週間の設定や遅刻過多者に対する早朝登校などの指導を行った。 ・年度当初から、欠席数・遅刻数が多く、なかなか改善が見られなかった。 ・外部講師による防犯や交通安全に関する講話の実施、生徒交通委員による交通安全指導・安全マップの作成、職員・PTAによる0の日指導および街頭指導、また機会あるごとに安全確保について注意を促した。 ・例年に比べると事故の報告件数は少ない状況である。 ・集会やその他、機会あるごとにマナーの遵守、挨拶の励行、身だしなみについて触れている。 ・多くの生徒は、きちんとできているが、徹底はされていない。交通マナーについては、時折外部の方から指摘されることもあり、継続した指導が必要である。 ・集会等を通じ、人権について考える機会を設けた。 ・生徒観察やアンケートを行ない、必要に応じて情報の共有を図った。 ・からかいやいじり、SNS上での誹謗中傷が皆無ではなく、常日頃からの注意指導が必要である。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
進路指導	<p>①進路選択能力の育成</p> <p>②進路に応じた進路設計</p> <p>③進路目標の堅持と幅広い視野の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・面談、進路相談の充実 ・適切な資料提示 ・進路検討会・入試情報交換会の充実 ・入試制度改革への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路検討会の前後において、生徒との面談を中心に進路に関する相談ができた。 ・進路のしおりを中心に指導ができた。 ・入試情報交換会において、旧3年担任からの情報引継ぎができ、進路検討会においては一人一人のデータを職員全体で確認でき、今後の指導へとつなげることができた。 ・英語4技能外部試験、国語数学の記述問題の延期などの混乱はあったが、臨機応変の対応はとることができた。今後の動きに対する情報収集は必要である。
生徒会活動	<p>①部活動の充実</p> <p>②生徒の力で作り上げる生徒会行事</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部顧問会議と部長会議を有効活用する ・生徒会執行部を中心とした指導体制の確立 ・生徒の力で各種行事が運営できるように意識を高めていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・各顧問の指導のもとに活発な活動が行われ、多くの部活動が県大会に出場し、総体尾張支部で男子が総合優勝、女子が総合準優勝という結果を収めることができた。 ・多くの生徒が生徒会執行部に立候補し、選挙の結果選ばれた執行部の生徒が文化・運動の両常任委員とともに自主的、意欲的に行事の企画・実行をしてくれた。 ・特に体育祭のマスコット製作や応援の振り付けなどで、下級生の参加が少なく、3年生だけでほとんど完結してしまっている様子が見受けられた。伝統の継承という点で、もう少し下級生が積極的に参加できる環境を作っていきたい。
学校図書館	<p>①図書館の利用機会、利用者数の増加</p> <p>②利用しやすい図書館作り</p> <p>③視聴覚室の機器の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業、LTでの図書館利用をよびかけ、広報活動、図書委員会の活動を充実させる ・利用しやすいよう館内の環境を整える 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時もSSH、LTでの図書館利用を通じて多くの貸出利用がなされた。また毎月の「図書館だより」「新着図書案内」「図書館報」などによって図書館の催しを伝えることができた。特に「図書館だより」は毎月の担当生徒たちの読書体験に基づく「お薦め本」の紹介もあり、生徒目線の便りとなった。 ・学期ごとに図書委員会主催の行事を行ったことで、多くの生徒に来館してもらうことができた。1学期のビブリオバトル、2学期の読書週間企画(BOOKUJI)、「檜校生クイズ」はいずれも盛況に終わった。 ・新着本のレイアウトを工夫することで利用しやすい配架を心掛けた。 ・今年度当初に不具合のあったマイクを更新した。今後はさらに環境を整備し、より使い勝手の良い視聴覚室となるように努めていきたい。
学校保健	<p>①美化活動の充実</p> <p>②環境問題取り組みの充実</p> <p>③保健・安全教育の充実</p> <p>④保健安全指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・通常清掃・特別清掃を充実させる ・ゴミの分別、古紙回収を徹底させる ・生徒保健委員会活動の充実 ・心身の健康や安全指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・特にトイレ清掃に重点を置き、プリント「トイレ清掃のポイント」を配布・掲示し、点検も実施し美化に努めた。 ・分別場所では生徒で分別できるようになった。一層の分別のため、2学期にプリントを配布し、終業式で保健委員から呼びかけを行った。 ・これまで実質的活動のなかった3年生保健委員にも活動を分担してもらった。 ・相談室を面談等に利用しやすいように改修した。スクールカウンセラー・相談係・養護教諭・担任・学年会の連携を一層強めた。ベルト式担架を購入し、配置場所も工夫した。
SSH	<p>①探究力向上に向けたプログラム開発</p> <p>②SSHの成果の把握</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第2学年で課題研究の実施 ・教科・科目の垣根を越えた教材開発 ・これまでの成果を把握するためにアンケート等により事業を評価する 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度から学校設定科目「SSH課題研究基礎Ⅱ」にて課題研究を実施した。外部講師の指導を効果的に入れることで充実した指導内容で展開することができた。初年度であったため指導の段取りが円滑にできなかったことや、実施時期が遅くなったことが課題である。 ・数学と理科の教員が連携して、統計を学ぶ探究実験の教材を開発した。生徒の学習段階にあった効果的な教材となった。 ・大学の教育評価の研究者の助言のもと、卒業生に対するアンケートによる追跡調査を行った。現在アンケートの回収中である。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
ファッション創造科	<p>①各専門分野の専門的知識・技術の習得</p> <p>②創造力・表現力・判断力・実践力の育成</p> <p>③地域社会に貢献する人材の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ファッションや保育に関する専門的知識・技術を習得させる ・豊かなライフスタイルを創造する能力や実践力等を育成する ・地域社会が求める資質や能力の向上を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・各コースの専門性を向上させるための基盤作りに努めた。今後も技術検定などの資格取得に力を入れ、合格率を高めていきたい。 ・保育の校外実習の体験などにより、実践力、判断力を養うことができた。各種コンテストに応募し、個々の創造力を発揮することができた。 ・インターンシップ、一宮市主催の繊維振興学生視察研修事業、県庁本庁舎公開イベント、おいちまつりの参加など、地域との連携を通して総合力を高めるとともに、地域社会に貢献する人材の育成に努めた。
1年	<p>①基礎学力の涵養と発展的な思考への意欲の育成</p> <p>②学習、特別活動における仲間と切磋琢磨する経験</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な学習法の設定 ・人間関係の構築 ・学びの環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の授業に積極的に取り組み、学習内容を理解することができた。課題、予復習を精力的に取り組み、基礎学力を定着させることができた。課題研究を通して、思考力や表現力を身に付けることができた。 ・学校祭や予餞会などの学校行事を通して、仲間と協力して物事を創り上げることの意義を感じることもできた。周囲の人のやさしさに触れると同時に、他人を気遣うことの必要性を理解することができた。
2年	<p>①自己管理能力の向上</p> <p>②高い進路目標と教養の形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的かつ効率的に時間を使う能力、社会的ルール、マナーを遵守する態度の育成 ・進路の探求と自分を高めるための諸活動への積極的な参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の予習・復習を中心とした家庭学習と部活動の両立を考えて生活する生徒が多くみられた。 ・修学旅行を通じて、規律ある集団行動の必要性を学ぶことができた。また生徒会の諸行事を通じて、仲間を大切にすることの重要性を学び、様々な場面で学校のリーダーとしての意識も芽生えてきた。 ・文理(普通科)、コース(ファッション創造科)が分かれた2年生として、興味関心の強い教科や専門分野に関する知識に基づいた進路を研究する機会を与え、職業や将来の夢、自分のライフプラン等を考えることができた。
3年	<p>①挑戦し続ける心の育成、仲間との共生</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学力・思考力・表現力の向上 ・高い進路目標とキャリア設定 ・教養・社会性の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・予習・復習の習慣を身に付け、学習内容そのものに理解を深めて進路選択の要になる生徒も多く見られる。課題研究や小論文作成を通じて自分の考えを他者に伝える機会を持つことができた。 ・学校祭などの行事を通じて、級友や下級生と折衝しながら、相手を思いやる気持ちや物事を完遂させる責任感を身につけつつある。
総合評価		<p>一宮高校の古き良き伝統を継承しつつ、高大接続改革(大学入試改革)や新学習指導要領に対応するべく様々な改善を積み重ねることができた。今後は自ら「主体的な学び」に向かう姿勢の、更なる育成に努めていきたい。</p> <p>規範意識の醸成や人権意識の向上については、将来地域社会を担う人材育成という視点からも、「人間力」の向上や他者を尊重する意識の高揚に、引き続き力を注いでいく必要がある。</p>	